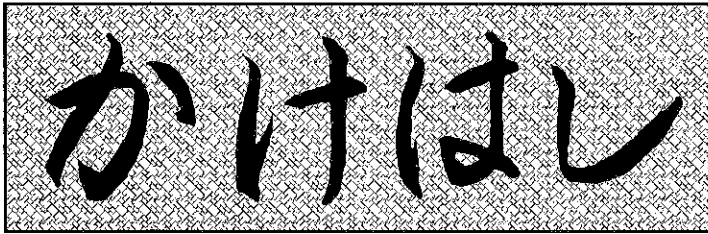


◆発行◆

いわき市教育委員会事務局
生涯学習課
いわき市少年補導員
連絡協議会



◆連絡先◆

平少年センター TEL 22-5431
小名浜少年センター TEL 54-1890
勿来少年センター TEL 63-3467
常磐少年センター TEL 43-2305
内郷少年センター TEL 26-2974
四倉少年センター TEL 32-2920

第13回いわき市青少年育成大会

8月30日、文化センター大ホールにおいて「第13回いわき市青少年育成大会」が開催され、少年補導員や学校教職員、青少年関係団体など約160人が参加しました。

今大会は、新型コロナウイルス感染防止のため、参加人数の制限や、オープニングアトラクションの中止など、例年と違った形での開催となりました。

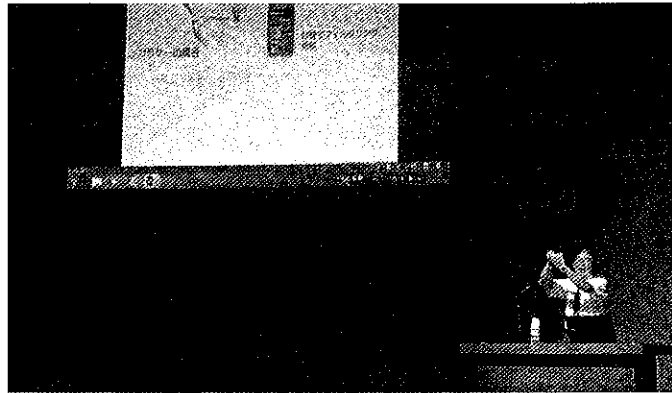
記念講演は、医療創生大学教授の中尾剛先生に「青少年を取り巻くインターネットトラブルの現状と対策について～情報モラル教育で子供たちを守る～」と題し、青少年のインターネットの利用実態をはじめ、青少年のインターネットトラブル等について、事例を挙げながら説明をしていただきました。

中尾教授は、これらのインター

ネットトラブルやケータイ・スマートフォンへの依存を避けるためにはインターネットとの適度な距離をとることと、情報モラル教育が重要であること、特に、青少年の発達段階に応じた内容で、幼少期から情報モラル教育を行うことが重要であることをスライドを使いながら説明しました。

また、「子どもは親を見て育つ」

という言葉にもあるように、子どもたちを様々なトラブルから守るために親がインターネット社会について意識を変え、親子でコミュニケーションをとり、一緒にインターネット社会を生きるために必要な力「判断力」・「自制力」・「責任力」を身に付けていくことが重要であることを参加者に強く呼びかけました。



事例をあげながら講演する中尾教授

ネット社会の中、 私たち大人の責任は

いわき市少年補導員連絡協議会
会長 松崎 総一郎

まずは、標記のように、第13回いわき市青少年育成大会が、本年は、新型コロナウイルスの影響もあり、今までにない形式で開催されました。改めて、公務ご多用の中、講師としておいでいただいた医療創生大学教授・中尾剛先生はもとより、ご参席いただいた皆

様方に、衷心より御礼申しあげる次第です。さても演題にありました～青少年を取り巻くインターネットトラブルの現状と対策について～は、言うまでもなく、私たち大人にとっても大変に重要な問題でもあり、現実的に、TV、新聞等に取り上げられ、喫緊の課題です。講演の中にありましたネット社会を生きるために必要な力、判断力・自制力・責任力というフレーズが、私には印象深く、フィルタリングについては、以前より取り上げられていますが、私たち

少年補導員の研修会や勉強会でも同様に市が力を注いでいるメディア指導員の養成…会員仲間にも活躍しているメディア指導員もあり、学ぶことが多いと認識しています。冒頭に記述しましたが、いわば、未曾有の惨事とも思える？新型コロナウイルス…世情の中で、少なからず活動に制限がある、とも思っていますが、次世代を担う子どもたちを守るためにも、自己研さんに努め、関係機関・団体とのより一層の連携を図りながら活動していきたいと思います。

『あいさつで 行き交う町の あたたかさ』

令和元年度「青少年健全育成に関する標語」 最優秀賞 正木 優花
(青少年健全育成市民会議勿来地区推進協議会)

コロナ禍のなかで

平東方部

補導員 柳田 明美

「上級国民ってなんだ？」フードコート脇を通り過ぎようとした時、男の子の声が耳に飛び込んできました。歩を緩め耳を澄ますと、紙面をめくる音とからかう声に混じり「自粛で時間ありすぎてさ、いろんな媒体に興味出たんだよ！」と。ほんの数秒の時間ですが、子どもたちの言葉に聞きいった出来事であり、その姿に感動し、ネット以外に興味を?と心の片隅にあった偏見を改めました。

また、ある日には「大人はウソをつく…」の言葉を伝え聞きがくぜんとなりました。「ロッキード事件」のニュースが流れた時、子ども心にそう感じたことを思い出したからです。人生100年時代、どうぞその疑問を忘れずに、ウソのない、差別のない、明るく美しい未来を築き、力強く小さくても歩を進めてほしいと、心から願うばかりです。

補導を通して感じること

平西方部

補導員 片寄 博正

補導員になってはや11年目に入ろうとしています。私が補導員になった頃、ちょうど娘が高校入学の時期でした。知人にすすめられ軽い気持ちで受け、仕事柄夕方6時から補導の参加でした。当時の補導は、車と徒歩の両立で行っていましたが、最近は車中心の補導活動となっています。

やはり、昼間よりも夕方の時間帯は子どもたちの数が少なく中高生中心の補導になっていると感じます。歩く補導では声かけが容易に出きたことが、車の中からでは、一部にしか声かけができません。また、10年前から比べるとデジタル化とゆとり教育で、子どもたちの遊び方もだいぶ変わってきたように思えます。デジタル化が進歩しても地域社会の一員として、一人一人を優しいまなざしで見守りたいと思います。

子どもとの関わり

小名浜方部

補導員 大滝 政利

昨今の子どもたちと私たちの育った環境というも

Report

のは大きな変化を遂げ、コンピューターのない時代は、自然自体が遊び場でしたが、今は変化の激しい時代となり、家に閉じこもる子どもが大勢いるのが現状です。そしてAIやスマートフォンによる情報が氾濫しています。そのような中で、子どもを見守り、それに即応して指導するのが、私たち大人の責務だと感じます。それは周りの大人が子どもたちと向き合い、子どもの人間性を黒に染めないようにするには、親自体が真剣に子どもと向き合うこと、周りの大人が見守り悪い方向に移行しないような対策を講じなければならないと思います。

これからはますます人間関係が希薄になるのは必然なので、最低でも自分の周りの子どもは良い方向へと導く必要性を痛感しています。



青少年への声かけで 明るい未来を願って

勿来方部

補導員 阿部 君江

補導員の活動もはや16年が経ち、子どもたちを取り巻く状況もだいぶ変化が見られます。特に今年の春先から、全世界で「新型コロナウイルス」の感染により、新しい生活様式が日本でも導入され家庭生活で苦難を感じていると思います。子どもたちは、三密を避け、休日は家庭で過ごすことが多く、ゲーム遊び、スマホ操作に夢中になり、友達との交流が少なく思いやりの心が薄れてきていると思います。

近年は補導の仕方も車の巡回になり、車中ではアドバイザーの方や参加者と身近な生の情報を交換

『SNS 見えない相手は 落とし穴』

令和元年度「青少年健全育成に関する標語」優秀賞 正木 結衣
(青少年健全育成市民会議勿来地区推進協議会)

街頭補導活動レポート

し、地域の子どもの現状を把握しています。いじめ、犯罪が多様化する中、安心して学生生活を送ることを願って微力ながら寄り添い活動を続けていければと思っております。

子どもとの関わり

常磐方部

補導員 阿部 那美子

「おはようございます」、最近、近所に越して来た子どもから声をかけられました。また、横断歩道を渡り終えた子どもたちが運転手に対して「ありがとう」とお辞儀をして行きました。生き生きとしてほほ笑ましい光景でほっとします。

しかし、大人たちはどうでしょう？ スマートフォンを持ち、イヤホンをして、人とぶつかっても謝りもしないで立ち去る。そんな自分勝手な行動をする人が増えています。本来であれば子どもたちに、正しいものは何か、迷惑をかけない行動とは何かを教えるのが私たち大人の役割ではないかと思えます。人間としての「モラル」、日本人としての「マナー」を補導員として自覚を持って、地域の子どものために堂々と胸を張って、教えられるひとりの大人でありたいと思っています。



子どもを信じること

内郷方部

補導員 市川 智子

長年の補導員の経験と、子育ても終わり余裕が出

てくる年齢になると、補導活動で見たり接したりする子どもたちの後ろに、親御さん達の姿が見えてきます。毎日の生活が忙しく、子育ての悩みは尽きない、そんな姿です。反抗期の子どもたちへの接し方などの日常のことから、将来の生活への助言など、親が考え決定しなければならないことが、山ほどあります。正しい子育ての教科書がある訳でもなく、ましてや、相手となる子どもたちの性格、心持ちも千差万別。兄弟でさえ全く違います。今思うことは、何が正しくて良かったかなど、誰もわからないということです。ただ言えることは、おのこの立場で、冷静な目を持って最善を尽くすこと、情報も大事、けれど振り回されないこと、そして最後にはやっぱり、子どもを信じることではないでしょうか。

ある日の補導活動

四倉・久之浜方部

補導員 高木 仁

午後6時に四ツ倉駅に集合し夜間の補導へ出発しました。下校中の生徒に会ったら、タバコなど絶対に吸わないように指導しようと向かいました。

帰宅途中の高校生の男女がいたので話をしました。バスケ部の練習の帰りとのこと、部活動が希少で脆弱（ぜいじゃく）な時代に大したものだと感心しました。私の同級生が大学4年生の冬の柔道大会で、不慮の事故により第四頸椎を骨折し、内定していた教員の職がふいになってしまった話をし、徒然草の木登り名人の話のように「最後の一步」まで気を抜かず、謙虚な気持ちが大事であることを話すと、生徒たちはうなずいて聞いてくれました。少年補導でも謙虚さや優しさの陰徳が大切ということをお忘れず「下から目線」で話をしていきたいと思えます。



『助け合い みんなで見守る 地域の目』

令和元年度「青少年健全育成に関する標語」優秀賞 山田 瑞葵
 (青少年健全育成市民会議勿来地区推進協議会)

事業紹介

～令和元年度いわき市少年補導員一日体験教室～

「いわき市少年補導員一日体験教室」は、小・中学生の保護者に、街頭補導業務を体験していただき、少年補導員の活動や青少年の実態を周知・認識してもらうとともに、少年補導員としての新たな人材の発掘及び育成を図ることを目的として、毎年開催しています。

令和元年度は、四倉・久之浜方部の保護者7名に参加いただき、本市の少年補導の概要や補導員の心得などを説明した後、補導車による街中の巡回や青少年への声かけなどを体験していただきました。



一日少年補導員の委嘱を受ける参加者

フレッシュな 新任補導員から一言

平西方部 補導員 鈴木 國治

前年度より少年補導員として、少年アドバイザーさんや先輩指導員の方々と一緒に活動させていただいております。

今年は新型コロナウイルス感染症の影響で学校が休みになったり、活動が制限される「新しい生活様式」の中で、感染対策を行いながら少年補導員として、子どもたちの安全を見守り、安心安全な地域づくりに貢献できるように、微力ながら頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

街頭補導

街頭補導では、青少年の非行化を防止し健全に育成するため、問題の起きやすい場所、たまり場、危険な場所などを巡回して、問題の早期発見や早期補導に努め、周りの大人が見守っていることが伝

わるよう、「愛の一声」運動を積極的に実施しています。

令和2年度は、一般市民及び教職員241人が、いわき市少年補導員として活動しています。



街頭補導の状況

令和元年度は、1年を通して計682回の街頭補導活動を実施し、延べ1,623人の補導員が従事しました。街頭補導活動における補導件数は「自転車の無灯火4件」と「自転車二人乗り4件」の合計8件でした。平成30年度に比べ、全体的に補導件数が減少しており、特に路上でのスケートボードなど「危険な遊び」が減っています。これは令和2年に入り新型コロナウイルス感染防止のため、外出の自粛なども影響していると思われます。

～補導日誌から～

- ・高校生が自転車の二人乗りをしていたので注意をしたところ、すぐに自転車から降りた。
- ・ベンチの上に立ってスマホで話している少年を見かけたので「ベンチは腰かけるところで、土足で上がらないように」と注意をした。
- ・公園付近を運動着で走っている女子中学生を数名見かけたので、「注意して走るように」と声かけをした。
- ・ヘルメットをかぶらずに自転車に乗っている2人がいたので補導員（教員）が指導をした。
- ・道幅いっぱいに自転車で走行する高校生の集団がいたので、「一列になって走行するように」と注意をした。
- ・巡回している補導車に礼をする女子生徒を見て、補導員が「素晴らしい」と感心していた。
- ・夜、中学生が多数で下校していたので「交通事故などに気をつけて帰るように」と声かけをしたところ、大きな声で返事があった。

『おはようで えがおひろがる あさのみち』

令和元年度「青少年健全育成に関する標語」最優秀賞 正木 愛莉
(青少年健全育成市民会議勿来地区推進協議会)